

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第12週 (3/21-3/27) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		12週	11週	10週	9週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	17
	眼科	5	5	5	4
	インフルエンザ*	28	27	28	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	3/21-3/27	3/14-3/20	3/7-3/13	2/29-3/6	3/14-3/20
			12週	11週	10週	9週	11週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	6
	咽頭結膜熱		1	3	1	2	18
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		33	53	48	56	457
	感染性胃腸炎		82	102	85	95	646
	水痘		8	7	7	3	57
	手足口病		0	1	1	0	2
	伝染性紅斑		3	7	8	10	56
	突発性発しん		3	7	4	7	41
	百日咳		0	0	0	0	2
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	0
	流行性耳下腺炎	↓	10	12	9	6	166
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓↓	268	578	762	897	4,265
			9.57	21.41	27.21	33.22	20.21
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	1	0
	流行性角結膜炎	○	5	4	2	2	19
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	3
	マイコプラズマ肺炎		0	1	1	0	1
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	1	0	0	2

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	病原体等の検出等	結核	女性	80歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	60歳代	病原体等の検出等	腸管出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の検出及び ベロ毒素の確認
結核	男性	80歳代	病原体等の検出等	デング熱	女性	40歳代	血清IgM抗体の検出等
結核	女性	50歳代	IGRA検査	急性脳炎	男性	10歳代	高熱及び中枢神経症状

・第12週は、結核5件(47)、腸管出血性大腸菌感染症1件(3)、デング熱1件(1)、急性脳炎1件(7)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第12週のコメント

＜インフルエンザ＞前週より大幅に減少し9.57となり、流行発生警報終息基準値を下回った。過去10年の同時期と比べると平均レベル。

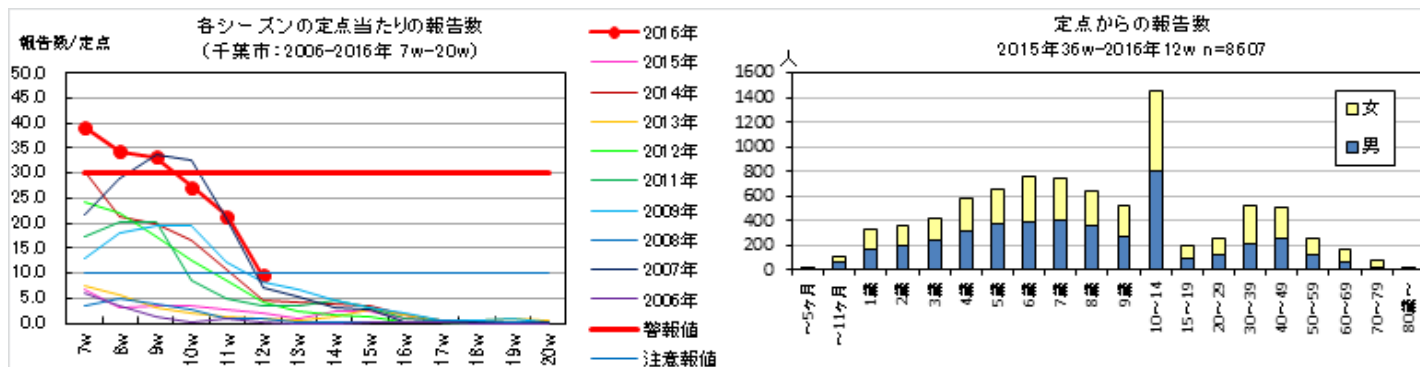
＜流行性耳下腺炎＞前週より減少し0.56となった。過去10年の同時期と比べると多め。

＜流行性角結膜炎＞前週より増加し1.00となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

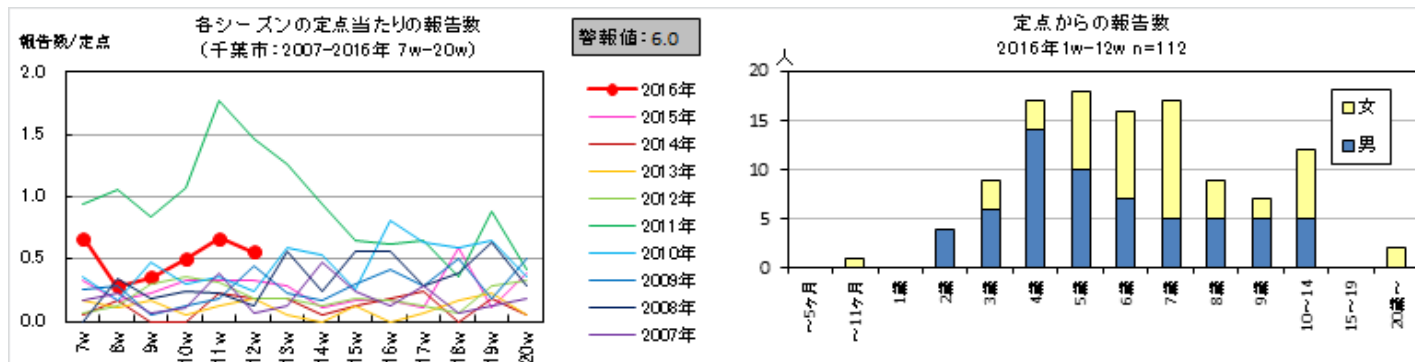
<インフルエンザ>

全国レベルの第11週は、前週から減少しましたが流行発生警報終息基準値(10.0/定点)は上回ったままです。過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、愛媛県、北海道、高知県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや少なめとなっています。千葉市の2016年第12週は前週より大幅に減少し9.57となり、流行発生警報終息基準値を下回りました。過去10年の同時期と比べると平均レベルとなっています。区別の発生状況は、若葉区(15.5/定点)で最多となっており、同区の10歳代で最も多く、一年代当たりでは8歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第12週までの累積報告数(n=8607)によると、性別では男性が51.9%(4436名)、女性が48.1%(4144名)で、年齢階級別では6歳(8.88%:764名)、7歳(8.71%:750名)、5歳(7.50%:649名)の順に多くっており、20歳未満は全体の78.9%、10歳未満は全体の59.6%となっています。また、型別迅速診断検査結果は、累積ではA型が46.3%、B型が42.8%となっていますが、第12週はA型が11.9%、B型が70.9%とB型が圧倒的に多くなっています。



<流行性耳下腺炎>

全国レベルの第11週現在は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、宮崎県、佐賀県、鹿児島県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2016年第12週は前週より減少し0.56となりましたが、過去10年の同時期と比べると依然として多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(1.5/定点)で最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第12週までの累積報告数(n=112)によると、性別では男性が54.5%(61名)、女性が45.5%(51名)で、年齢階級別では5歳(16.1%:18名)、4歳及び7歳(共に15.2%:17名)の順に多くなっています。



<流行性角結膜炎>

全国レベルの第11週現在は、過去9年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、宮崎県、長崎県、熊本県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより若干多めとなっています。千葉市の2016年第12週は前週より更に増加し1.00となり、過去10年の同時期と比べると最多のままととなっています。区別の発生状況は、中央区及び若葉区(共に2.0/定点)で多く発生報告があり、中央区では20歳代及び50歳代、若葉区では3歳及び40歳代で発生報告がありました。2016年第1週から第12週までの累積報告数(n=41)によると、性別では男性が43.9%(18名)、女性が56.1%(23名)で、年齢階級別では30歳代(19.5%:8名)、50歳代(17.1%:7名)、60歳代(14.6%:6名)の順に多くなっています。

